

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000327	事業の開始年月日	平成23年4月1日
		指定年月日	平成29年4月1日
法人名	(有)三上		
事業所名	グループホームみかみ		
所在地	(245-0067) 横浜市戸塚区深谷町1234-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和3年1月6日	評価結果 市町村受理日	令和3年6月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者に対しては一人ひとりの性格や生活状況を把握しその人らしい生活を送れるよう、その人らしい笑顔になってもらえる様に支援しています。また家族支援も大事に思っています。グループホームで生活すると決めた時からご家族の不安や心配は始まります。ご家族の話を良く聞き、コミュニケーションを大切に、安心して見守って頂けるよう努力しています。またご利用者の体調管理に気を配り早期発見に努めています。入院してADLが下がってしまってもスタッフ一丸となりまたホームで暮らして行けるよう支援し続けます。実際医師から、もうホームには戻れないと言われたご利用者もご本人とご家族とスタッフの力で復帰できた事例もあります。諦めない気持ちがスタッフにはあります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年3月19日	評価機関 評価決定日	令和3年6月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR東海道線・横須賀線及び市営地下鉄ブルーライン「戸塚」駅からバスで約20分、「横浜薬大南門」下車徒歩2分の住宅街に立地しています。鉄骨造り3階建ての建物の1階が事業所で2階、3階に同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。事業所内はバリアフリーで、介護度の高い人も入浴できる電動リフトの設備があります。

<優れている点>

新型コロナ禍で現在中止していますが、例年は自治会行事への参加、中学生の委員会活動などでの交流、ボランティアの受け入れ、近所の人を招いたクリスマス会などで地域の人々と交流しています。仕事と家庭の両立のため、職員の半日出勤を可能にして就労環境を整えています。毎月発行している「め～えめ～え通信」の個別の様子欄には、食事・排泄・健康面のほか、体温と血圧を折れ線グラフで示し、体調の変化を分かりやすくしています。日中、玄関は開錠しています。身体拘束について学ぶ機会を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。外出を強く希望する人には感染防止対策をした上で、職員と買物に出かけるなどして、1人ひとりの思いに寄り沿ったサービスを提供しています。

<工夫点>

新型コロナ禍での密の回避から、例年行っている年2回の避難訓練は、現在実施していませんが、安全に避難できるよう、見取り図に避難経路を明記したものを全職員に回覧して周知し、災害に備える意向です。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム みかみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	何か問題が起こった場合は理念を振り返り、皆で相談しながら答えを出し、より良い支援が出来るようにしています。就業規則の1ページに載せ、理解してもらえよう説明し、共有しています。	「わたしたちは、人と人が支え合う、共に生きる持続可能な社会の実現を目指します」という理念を掲げ、パンフレットへ掲載し、事業所内にも掲示して共有しています。管理者は、困難事例の際などに理念を基に判断する事を職員に伝え、実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に参加しています。施設での催しの際には近所の方や近隣中学校の生徒さんに参加していただいています。本年はコロナ禍により密を避けるため、催しや地域との関わりを自粛しました。	例年は、町内会の祭りや防災訓練への参加、中学生の職業体験や委員会活動での交流、踊りやウクレレなどのボランティアの受け入れ、近所の人を招いたクリスマス会などで地域の人々と交流しています。新型コロナウイルス感染防止のため、現在はこれらを中止しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域に根ざしているのを感じるのは、相談件数が多くなっていることです。個人からの連絡も多く、直接契約に結びつかなくとも、地域の方々の相談相手に現在もかかわっています。代表者は地域集まりのアドバイザーや講師として招かれています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	R2年1月よりコロナ禍の為、運営推進会議を開催できませんでした。本来の活動ではその都度状況報告しています。推進会議で出た要望はすぐに実行するように心掛けています。回を増すごとに意見や話がしやすくなっています。	メンバーは自治会々長、民生委員会々長、各地域の民生委員、地域包括支援センター職員、事業所の職員で奇数月に開催し、事業所の活動状況報告や看取りなどの話をしています。新型コロナウイルス感染防止のため令和2年1月より書面開催となっています。	外部の人々が参加する中で、利用者や家族が意見・要望を表せる機会になります。利用者や家族もメンバーとして会議に参加できるようになることも期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは密に連携をとっています。生活保護者の受け入れをしているのでケアワーカーさんとも相談しやすい関係にあり、積極的に協力体制をとっています。	区の高齢・障害支援課に推進会議の報告書や外部評価結果を郵送しています。地域包括支援センター主催の勉強会への参加や入居相談、行政が開催する認知症などの研修に参加しています。生活保護費を受給している人がおり、担当課職員と協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	コロナ禍の状況で全体ミーティングの開催が困難なため、身体拘束についての資料配布や身体拘束、虐待チェックシートの配付を行い、職員全員に報告書を提出してもらい、身体拘束廃止について考える機会を設けました。 玄関の施錠については、ご利用者の不穏状態が強い時には一時的に施錠することもあります。	日中玄関は開錠しています。利用者に外出の素振りが見られた時は、職員が同行して外に出たり、仕事を依頼して落ち着くのを待っています。指針を整え、身体拘束についての資料配布や虐待チェックシートを用いて各自で考え学ぶ機会を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	通常であれば全体ミーティングで高齢者虐待防止法について勉強会を開いたり職員間で言葉かけやケアの方法について話し合い理解を深めています。利用者家族に対しても、面会時に利用者への接し方を説明したり、話を聴くことで、虐待防止に努めています。 本年度においては、ミーティングの開催が困難なため、虐待についてのチェックシートを配付し回収後、集計結果を報告しました。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は成年後見制度について理解しており、必要と考えられる利用者や家族に勧めています。またご家族の要望などにも話し合いを持っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約又は改定などの際についての内容説明は、十分ご理解いただけるよう、ご利用者ご家族に説明させていただいています。管理者・ケアマネに気軽に話し合いをもてるような体制にしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員がご利用者とのコミュニケーションを大切にしており、要望などがあれば、すぐに管理者、ケアマネに相談できるに体制にしています。要望があれば真摯に受け止め運営に反映させます。	「め～えめ～え通信」を毎月発行し事業所の様子を家族に伝えています。「職員の名前がわからない」など、家族が来訪した際に意見を聞き、その後名札を付けています。新型コロナ感染防止対策を施し、現在は窓越しでの面会や居室で10分程の面会を実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者から積極的に職員へ話しかけ、職員が話やすい環境をつくっています。	利用者のケアでの気づきや業務連絡などを定例の会議で話し合っています。職員の意見を反映し保温機を購入しています。管理者は、年1回の個人面談のほか、必要に応じて職員の相談に応じています。働きやすいように、半日出勤を可能にし、就労環境を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の職員の実績を把握し、給料に反映しています。又、各スキルアップのためのインフォメーションを流し、向上心を持てるような環境を整えています。更に役割りを分担する事で職員一人ひとりがやりがいの持てる職場環境を目指しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	実習型雇用・中高年トライアル雇用の採用をし、実習計画に沿って指導にあたり、ケアの向上を図っています。新人スタッフには熟練スタッフが指導にあたり、個々に合った研修を勧める等スキルアップに繋げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設で行われる講習会への参加を職員に促しています。グループホーム連絡会に加入し、情報収集や意見交換をしています。本年度については外部との関わりを自粛しました。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用者との信頼関係が一番大切なことです。ご利用者からの訴えを待つのではなく、常に何気ない会話をするように心がけ、こちら側から不安や要望を聞きだすようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族がどのような問題点を抱えているのかを十分な話し合いの中で捉え、問題解決のためにどのようなサービスができるかを一緒に考え信頼関係を築いています。面会時に話安い環境を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	コロナ禍の為、新規入居についてはできる限り保留していましたが、緊急性のある依頼を受けた場合には、通常の施設訪問等は控え、転入前の相談員等よりできるかぎり情報をいただき必要なサービスを検討することができた		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者にできるだけお手伝いをしてもらえよう心がけています。洗濯干しや調理の際使用する食材を切ったり、片麻痺があるご利用者にはピーラーを使って手伝って頂いたりするなどいろいろ工夫しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本年度前半はコロナ禍に関する説明をさせていただいた上で、ご家族には面会を禁止させていただきました。後半は消毒、バイタルチェックを行った上で短時間での面会をしていただけるようになりましたが、ご利用者とご家族が関わりづらい年でした。通常であれば、施設でイベントを行なう際には、お客様として参加されるのではなく職員と一緒にご利用者に喜んでいただけるようお手伝い・協力をしていただいています。また、面会時にお散歩に出かけて下さるご家族もいらっしゃいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所まもなく心細い思いをされている方にはお友達と連絡をとり、お友達の家へ遊びに行かせていただいたり、お友達が施設へ遊びに来てくださるなど、交流が続いています。また、連絡を取りたい方には、電話・手紙などでの連絡を積極的にお手伝いしています。	新型コロナ禍で友人などとの面会は中断しています。例年は、個別支援で墓参りや美容院など馴染みの場所へ外出していましたが、新型コロナ禍においては、電話や手紙の支援に留まっています。趣味の編み物をしてこれまでの生活習慣を継続している人がいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションの中で出身地の話を持ち出し、ご利用者同士が同郷の話ができるように会話の橋渡しをしたり、職員がご利用者同士の関係性や性格等を把握し、できるだけ交流ができるように食席を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前入居されていた方の息子さんのお看取りについてご家族より相談をうけました。病院から転院を勧められ、どうしても当施設でお看取りをしてほしいと強い希望があったため、ご家族や病院と受け入れに向けて話を進めていきましたが、お亡くなりになり入居に至りませんでした。ご家族は相談する場所があったことに安心されていたようです。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常にご利用者とコミュニケーションをとり、希望・意向に添えるように努力しています。ご本人の希望を聞き取ることが困難になってきたのでご家族からの情報収集にも努めている。	利用者の思いは、入浴や散歩など職員と1対1で関わる際に耳にする事が多く「お寿司が好き、友達に会いたい」などを把握しています。言葉での意志疎通が困難な時は、家族に確認したり、声かけに対する利用者の反応の変化を見逃さないようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	他業者から引き継ぐ場合も、これまでのサービス利用の経過を把握し、ご利用者の生活歴も含め理解を深めています。ご本人の気持ちを重視し、出来る限り生活環境が大きく変わらないよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出勤日数の少ないパートさんや夜勤者より、情報の共有ができていないと指摘を受け、改善策を話し合い、週間カレンダーをフロアに設置し、ご利用者の現状が一目でわかるようにしました。処置の変更等がわかりやすくなり業務の効率がよくなったと意見が出ています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	現場職員の意見をモニタリングに取り入れている。ご利用者の状態の変化など必要に応じて介護計画の変更を行っている。	介護計画は、長期1年、短期半年の目標を設定し作成しています。目標更新時にモニタリングを行い「出来る事は自分でしたい」などの本人の意見や、家族、医師などの意見も計画に反映しています。状況が変化した場合は、期間に関わらず見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	必要な情報が一目でわかるように項目の書き方を統一しました。また、個別記録の書き方についても、管理者、ケアマネが適時確認し、職員目線の記録にならないようにご利用者の気持ちを記録するように指導することで、支援につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	既存のサービスに捉われない事なく、ご利用者やご家族の要望に出来る限り応えられるよう努力しています。また、要望を待つばかりではなく、必要と思われることがあれば、こちらからも提案させていただきます。常に思いやりの支援を心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本年度はコロナ禍の影響により地域との関わりを自粛しています。通常では、サークルの方が来訪して下さったり、中学生の職業体験の受け入れや、1回/月、福祉委員会の生徒さんが来訪してくれることをご利用者が地域とのつながりを継続できるように支援しています。また、地域の方の協力を得て1回/月、地域の趣味の教室にお1人で参加されているご利用者もいらっしゃいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の集団受診の他に、週1回の訪問看護、24時間対応看護で、しっかりと連携がとれています。利用者、ご家族が共に安心できる体制になっています。ご家族の希望があれば、医師より直接説明していただくこともあります。	利用者全員が月2回来訪する内科の協力医を受診しています。訪問歯科は必要時に依頼し受診しています。皮膚科などの専門医は外来受診です。対応は事業所で、内容により家族が同行します。訪問看護は週1回健康管理をしています。24時間オンコール体制です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は、日常の変化や気づきを看護職員に伝え、随時適切な指示・判断を仰ぎ、ご利用者の身体安全を第一に努めています。ちょっとした疑問も気軽に相談できる関係にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際、安心して治療できるように詳細な介護サマリーを病院に提供しています。地域連携室を通してご利用者の入院中の様子病院側からも入院状況及び退院に関して事前に詳細な情報提供があり、現在の連携は良好と考えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所開始時から、本人ご家族と終末ケアについて話し合い、相互理解を結んでいます。終末ケアをした経験を活かし、事業所として出来ることの方針を示し、地域関係者と共に支援していきます。	重度化や終末期の指針は、契約時に家族などに説明し同意書を交わしています。終末期に際しては主治医や家族、事業所と協議を重ね同意書を交わしています。終末期介護計画書をもとに行い、既に多くの看取りを受け入れています。研修を行い、今後にも備えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の連絡の仕方もわかりやすく作り直し見やすい場所に掲示してあります。具体的な応急処置は看護師の指示を仰いでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災報知器の使い方の実地訓練。また、安全に避難できるように、消防職員による消防訓練を実施。利用者・職員が安全に避難できるよう2回/年、定期的開催しています。	例年夜間想定を含め年2回訓練をしています。新型コロナ禍で自粛中ですが全職員が避難通路などの確認、周知に努めています。食料や飲料水の確保、ヘルメットやコンロ、懐中電灯などの災害用備蓄品リストを作り、管理者が管理しています。	災害時の地域との協力体制の構築は重要です。訓練の際に自治会への回覧や近隣へのポスティング、防災委員の参加を依頼するなど、できる事から働き掛け、災害に備えておくことも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーの確保はケアするにあたっては必須のことと認識しており、利用者の尊厳を大切にしています。新人研修時には言葉遣いや声掛け、排泄、入浴時など自尊心を傷つけない対応をすることを強く伝えている。	プライバシーや人権擁護、身体拘束や虐待防止の研修を実施しています。排泄や入浴介助の際はドアの開閉、タオルの使用など本人の自尊心を損なうことのないよう細心の注意を払っています。居室に入る際はロックと声掛けを励行しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員とのコミュニケーションがとてもうまく取れており、気軽に希望などを話していただけます。すぐに対応できることは実現しています。意思表示が困難なご利用者に対しては「本人ならばどのようにしたいのか」と本人主体になるように日ごろの利用者との関わりの中でヒントを得るように心がけて対応している。自分の好きな物が食べたいというご利用者に対しても一緒に買い物に出かけ、個別対応を受け入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	外出が困難だったため、ご希望があればエントラスでの日向ぼっこや近隣のお散歩にでかけていただいた。密を避けるため、席の配置を対面にならないように工夫した。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族の支援により、みなさん身ざれいにされています。又、事情によりご家族からの支援を受けることができないご利用者にはスタッフや知人からの寄付により、その人らしい装いができるようにしています。通常は訪問理容を利用していますが、希望者には近隣の美容院へお連れしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	外部委託食材を使用。ご利用者には包丁やピーラーを使い野菜を切って頂いている。また、お茶の準備や食器拭きなど、ご利用者と職員が話をしながら一緒に行っている。	食材は委託（昼、夕は湯煎）で利用者の形態に合わせて手を加えて提供しています。朝食は職員が献立と材料の仕入れを行い、手作り料理を提供しています。敬老の日やクリスマス、流しソーメンなどの行事食を楽しんでいます。おやつ作りの楽しみもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表にて一日の水分量を把握するようにしています。水分を摂りたがらない方には、ちょこちょこ飲みをしていただき、1日の必要量に届くように努力しています。また、必要があれば水分にトロミをつけます。食事に関しては個人の状態に合わせた形態にし、ソフト食にも対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後に声かけをしています。また、介助が必要な方には看護師の指導のもと、職員が介入し、口腔ケアに力を入れています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック24時間表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。なるべくトイレでの排泄をするよう、職員一同声かけ誘導をしています。	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導しています。定時に声掛けを励行し、自立に向けた支援をしています。失禁した場合にはさり気なく声掛けし、トイレ又は浴室に案内して対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	全体的な活動の低下により便秘されるご利用者が増えています。まずは、牛乳等飲食物で便秘解消を試みますが、解消されない場合は医療へ相談しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日の設定はあります。入浴は職員と一対一の空間なので穏やかに昔話をしてくださる等、一人浴槽での入浴を楽しまれています。希望があれば好みのシャンプーやリンス、ボディソープを使って頂きます。冬季は入浴剤を数種類用意し、お湯の色や香りを変えて楽しんでいただいています。	入浴は週2回です。入浴専門の職員がおり、不安をなくしたり、楽しく入浴が出来るよう支援しています。入浴を拒む人には、時間や日を変えたりして促し、無理強いはしていません。季節のゆず湯や入浴剤を楽しむこともあります。リフト浴の設備があります。空調設備でヒートショックの予防対策をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの習慣、その日の体調に合わせ、ゆっくり過ごせるようにしていただいています。部屋の温度・調光にも配慮し、快眠につなげています。集団行動に捉われず、一人ひとりのペースを大切にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者の服薬管理は薬局さんをお願いしています。薬情報はファイル保管の他に職員が見やすいように個人ファイルの見開きに貼り、目的や副作用をいつでも確認することができます。また、状態観察をしっかり行なうことで、症状の変化に気を配っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	孤立しがちなご利用者が他利用者の輪の中に入りやすいように個々のご利用者の「できること・興味のあること」を職員が見出す努力を常に行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	できる限り希望にこたえる支援を心掛けていますが、本年度は外出を自粛しました。個別対応により、希望のあったご利用者をお墓参りにお連れしました。	新型コロナ禍以前は、午前または昼食後に散歩に出かけていましたが、現在はエントランスで日光浴や外気浴を楽しむようにしています。全員でマイクロバスでドライブを兼ね、鎌倉の大仏に出かけたり、家族の協力で買い物や外食に出かける利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物支援をしています。一緒に買い物に行き、金銭の管理もご本人がしています。金銭管理をしていない人も、買い物はとても気分転換になるので、利用者の楽しみです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話をかけていただいています。連絡をとっていなかった遠く離れたご家族にスタッフが手紙を代筆し交流を続けられています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設内では普段からさまざまなジャンルのBGMを流しリラックスできる環境作りや、イベント時の写真をフロアに飾ることで、利用者同士の交流のきっかけを作っています。また、地域の方がエントランスに花を生けに来てくれています。	食堂兼リビングは、掃除や換気、室温調整がされ、明るい共有空間となっており、椅子やテーブル、ソファ、テレビがゆったりと配置されています。利用者の季節ごとの作品を飾り、季節感があります。リビングではテレビを見たり、湯茶を飲んだり、職員とトランプに興ずるなど、穏やかな時間が流れています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日当たりの良いエントランスには花を飾ったり、ご利用者の作品を飾ったりして居心地の良い空間を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人、ご家族の意向を大切にしています。思い出の写真や愛着のある物を居室に置くことで、居心地の良い空間をつくる事に配慮しています。また、居室担当を決め、責任をもって整理・整頓するように心掛けています。	予めエアコンや照明、ハンガー掛け、扇風機などが備えてあります。利用者は、テレビやダンス、収納ケース、鏡、写真、ぬいぐるみなど思い思いの馴染みの家具調度品を揃え、居心地よく過ごせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	今出来る事を続けられるように、手すりの取り付けや風呂場で滑らないような工夫をし、安心して過ごせるよう心がけています。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム みかみ

作成日： 令和 3年 6月 16日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策における地域との協力体制について訓練にこれまで参加して下さった地域の方が参加できなくなってしまった。コロナ禍の為、避難訓練を自粛している状態ですが、この間に参加してもらえ地域の方を探したい。	地域の方に避難訓練へ参加していただく。	運営推進会議では地域の民生委員の方が参加されているので、災害時の協力を呼びかける。また、情報を提供していただく。	12ヶ月
2	3	運営推進会議にご家族にも参加していただくことは既に課題になっていましたが、コロナ禍の為、達成できていない。	現在コロナ禍の為、運営推進会議を書面での非対面で行っているため、この機会にご家族にも書面での参加をお願いし、対面での会議参加につなげていきたい。	数名のご家族に運営推進会議への参加を呼びかけ、活動報告書を送付する許可をいただき、次回運営推進会議から参加していただきたい。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月